◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI

DIGITAL PIANO PW610, PS650

取扱説明書

KAWAI MUSICAL INSTRUMENTS MFG. CO., LTD.

■ ごあいさつ

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。　KAWAI 電子ピアノは、ピアノの音色はもちろんオルガンなど全7種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブ，伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングなど多種多彩な機能を装備しています。
さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーにとんだ演奏にも対応できるようになっています。
本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛顧いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

■安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。

製品本体に表示されているマークには次のような意味があります

注意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

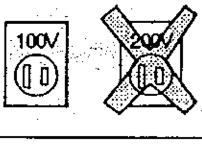
○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。
左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。
左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

電源は、必ずAC100Vを使う

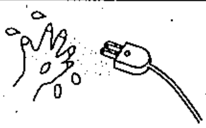
100V以外禁止



＊付属のACアダプター、或いは当社推奨のものを使用して下さい。
＊ACコードの場合、電源電圧の異なるものを使用しないで下さい。
＊発火の恐れがあります。

水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



感電の原因になります。

本機を落とさない

落とさない

運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

いすは次のように使用しない（楽器演奏時に使用する事）

- ●いすで遊んだり、踏み台にしない
- ●いすには2人以上で座らない
- ●いすの高さ調節は、いすから降りて行う
- ●蓋の開閉はいすから降りて行う

使用しない

いすが倒れたり、指をつめる恐れがあり、けがの原因になります。

ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止

聴力低下の原因になる恐れがあります。

本機を分解、修理、改造しない

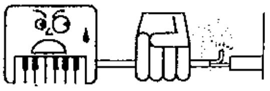
分解禁止

故障、感電、ショートの原因になります。

■ 使用上の注意

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

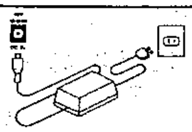
プラグ部分を持つ



＊コードを引っ張るとコードが破損し火災、感電、ショートの原因になります。

長時間ご使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く



＊落雷時に火災の原因になります。
＊アダプター本体の温度が上がり、火災の原因になります。

⚠ 注意

本機を次のような所では使用しない

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- 戸外など極端に温度の低い場所
- 極端に湿度の高い場所
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

使用禁止

故障の原因になります。

鍵盤ぶたは、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる

いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

鍵盤蓋付仕様の場合

コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

本機や接続機器の故障の原因になります。

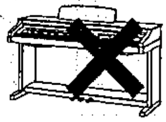
本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

本機の鍵盤にもたれない

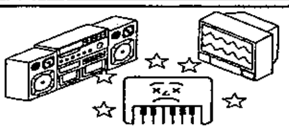
もたれない



本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

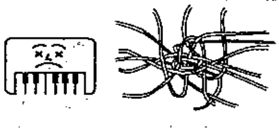
他電気機器から離す



＊本機が雑音を発する恐れがあります。
＊本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

電源コード、接続コード類はからまないように接続する

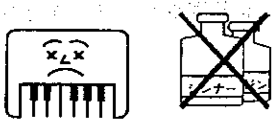
からまないようにする



コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止



＊色落ちや、変形の原因になります。
＊清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない

変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

保証書について

- 本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。
- 保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

修理について

- 万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

■目　次

1.各部の名称と働き ―――― 6

2.演奏してみましょう。 ―――― 8

1）基本操作 …… 8
2）デュアル演奏 …… 10
3）トランスポーズ …… 11
4）タッチカーブ …… 12
5）デモ曲の演奏 …… 13
6）メトロノーム …… 15

3.録音・再生してみましょう。 ―――― 17

1）カンタン録音（1曲目への録音） …… 17
2）カンタン再生（1曲目の再生） …… 18
3）通常の録音（2~5曲目への録音） …… 19
4）通常の再生 …… 21
5）パート別の再生（パートのミュート） …… 22
6）曲の消去 …… 23

4.その他の機能の使い方（設定モード） ―――― 24

1）チューニング …… 26
2）音律の設定 …… 27
3）メトロノームボリューム …… 29
4）メトロノームの拍子 …… 30
5）レコーダーのミュートボリューム …… 31

■ MIDI機能の使い方 …… 32

6）MIDI送信・受信チャンネル …… 35
7）プログラム（音色）ナンバー送信 …… 36
8）マルチ・ティンバー・モード …… 39
8）マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音 …… 41
10）ローカルコントロール …… 42

■主な仕様 ―――― 44

MIDI IMPLEMENTATION CHART ―――― 45

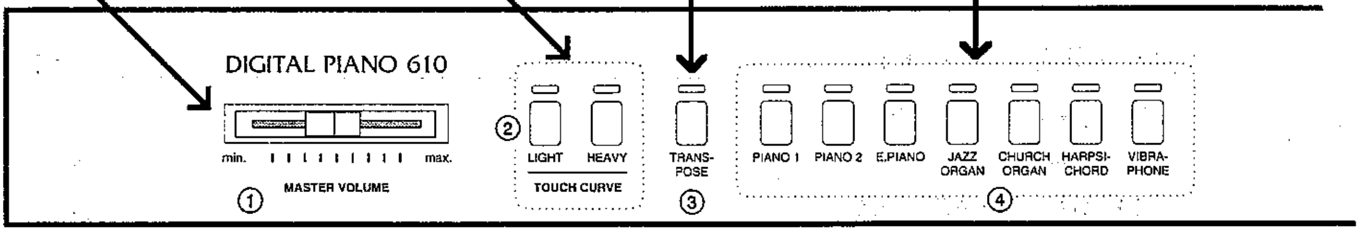
1.各部の名称と働き

①VOLUME（ボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。

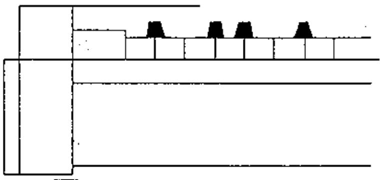
②TOUCH CURVE SELECT
（タッチカーブセレクト）
タッチカーブを選択するボタンです。タッチカーブについての詳細は、12ページを参照してください。

③TRANSPOSE
（トランスポーズ）
トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。

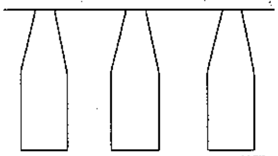
④音色セレクトボタン/音色名表示
音色を選択するボタンです。演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。



＊ＰＳ６５０のパネル図は、ＰＷ６１０と共通です。



⑪ヘッドホン端子（2個）
別売りのヘッドホン（SH-5,SH-2）を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。



⑫ソフトペダル
音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

⑬ソステヌートペダル
鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むとその音にだけサスティンがかかります。

⑭ダンパーペダル
鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサスティンがかかります。

⑥REVERB（リバーブ）
音にリバーブ効果（残響効果）を与えることで、美しい響きが得られます。

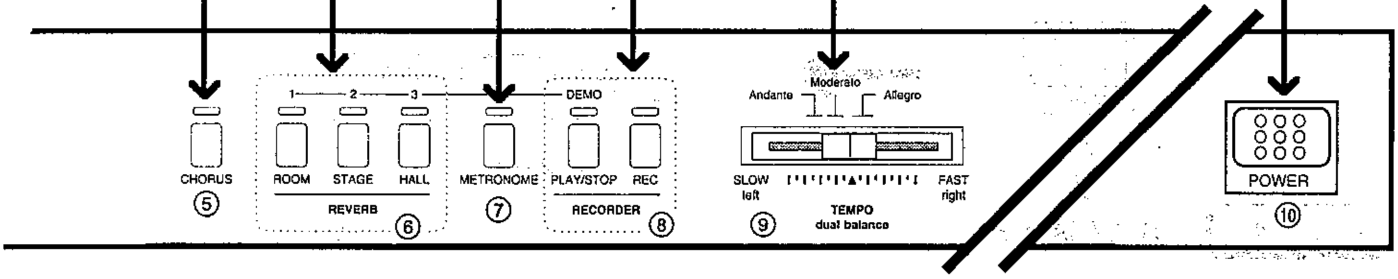
⑧RECORDER（レコーダー）
PLAY/STOP,RECの2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。

⑤CHORUS
（コーラス）
音にゆったりとした広がりを与えるコーラス効果が得られます。

⑦METRONOME
（メトロノーム）
メトロノーム音を鳴らします。

⑨TEMPO / DUAL BALANCE
（テンポ / デュアルバランス）
メトロノームやレコーダーの録音、再生時のテンポを設定します。
また、デュアルで演奏する場合の2つの音色の音量バランスを設定します。

⑩POWER
（電源スイッチ）
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

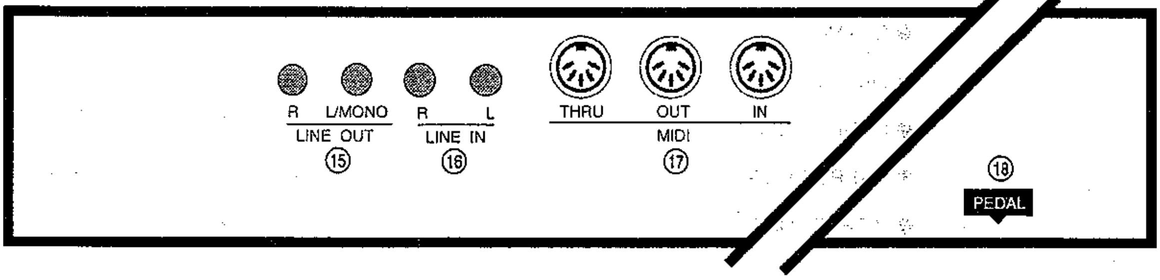


⑮ LINE OUT（ライン出力端子）
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、テープデッキに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調整できます。R（アール）は右側、L/MONO（エル/モノ）は左側の出力を示しています。
モノラル信号で使用する場合は、L/MONO側を使用してください。（R側には、プラグを差さないで下さい。）

⑯ LINE IN（ライン入力端子）
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R（アール）は右側、L（エル）は左側の入力を示しています。

⑰ MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器などを接続するための端子です。

⑱PEDAL（ペダル端子表示）
ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのプラグを接続する端子の位置を示します。



2.演奏してみましょう。

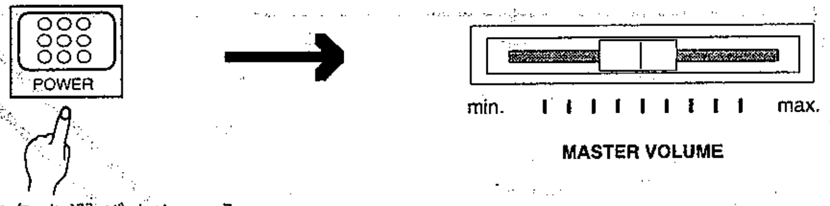
1) 基本操作

ここでは、音を出すまでの基本的な手順を説明します。

ステップ 1　電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

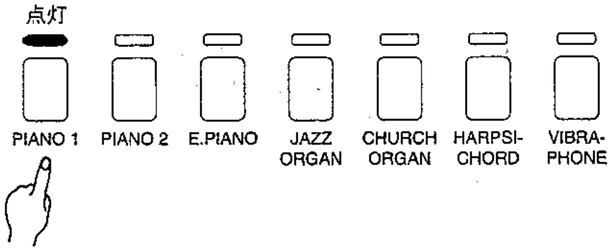
ステップ 2　POWER ﾎﾞﾀﾝ ⑩ を押して電源を ON にします。

ステップ 3　VOLUME ﾚﾊﾞｰ①を中央付近にセットしてください。



ステップ 4　音色を選びましょう。

音色セレクトﾎﾞﾀﾝ④の中から好きな音色1つ選んで押してください。押された音色のランプが点灯します。



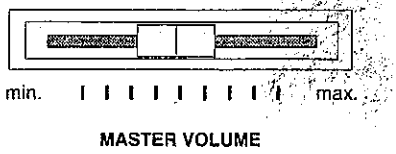
■ 電源をONにした時は、自動的にPIANO1の音色が選択されます。

■ 本機では以下の7種類の音色を内蔵しています。

- ◆ PIANO1
- ◆ PIANO2
- ◆ E.PIANO
- ◆ JAZZ ORGAN
- ◆ CHURCH ORUGAN
- ◆ HARPSICHORD
- ◆ VIBRAPHONE

ステップ5　鍵盤を弾いてみましょう。

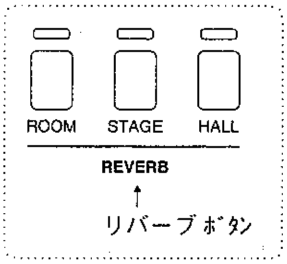
鍵盤を弾けば"ステップ4"で選んだ音で演奏することができます。
音量を調節したい時は、VOLUMEﾚﾊﾞｰ①でお好みの
音量に設定してください。



■ 複数の鍵盤を同時に押した場合、32音まで発音します。

ステップ6　必要に応じてコーラスの効果を加えたりリバーブの設定を変えてみましょう。

ここでは、音に効果を与えるエフェクトの中でも代表的なコーラスとリバーブをかけることができます。
本機では、1種類のコーラスと3種類のリバーブを用意しています。パネル上のCHORUSﾎﾞﾀﾝ⑤を押せばコーラス、REVERBﾎﾞﾀﾝ⑥を押せばリバーブの効果を音に与える事ができます。POWER ON時には、ROOM REVERBがONになります。また、E.PIANO, JAZZ ORGAN, CHURCH ORGAN, VIBRAPHONE, STRINGSは音色選択時にコーラスが自動的にONになり、PIANO 1,2, HARPSI CHORDは、音色選択時にコーラスが自動的にOFFになります。
コーラス、リバーブ各効果に関しては以下に説明を加えておきます。



■ コーラス　コーラス効果を加えると音に広がりが加わります。
本機でコーラスを使用した場合、複数の鍵盤を同時に押した場合、16音まで発音します。

■ リバーブ　リバーブ効果を加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
本機では、以下の3種類のリバーブを用意しています。

◆ ROOM	室内で演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。
◆ STAGE	ステージで演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。
◆ HALL	ホールで演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。

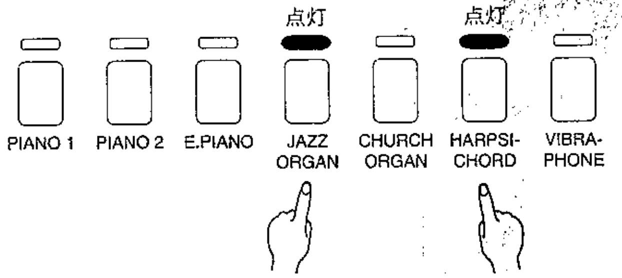
■ 音色によっては、これらの効果の加わり方が異なる場合があります。

2）デュアル演奏

デュアル演奏では2つの音色を重ね合わせる事ができます。すなわち鍵盤を弾けば、設定した2つの音色が同時に発音され音に独特の厚みを得ることができます。

ステップ 1　重ね合わせる2つの音色を設定します。

重ね合わせる2つの音色を決めたら、音色セレクトﾎﾞﾀﾝ④の中より重ね合わせる2つの音色ボタンの内1つの音色ボタンを押しながらもう1つの音色ボタンを押します。すると押された2つの音色ボタンが点灯します。



ステップ 2　鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した2つの音色が重なって発音されます。

> ■ デュアル演奏では、複数の鍵盤を同時に押えた場合、16音まで発音します。
>
> ■ また、デュアル演奏を設定した時に以前に設定していたコーラスの効果は自動的にキャンセルされます。
> コーラス効果を加えたい時は、再度コーラスﾎﾞﾀﾝ⑤を押してください。

ステップ 3　デュアル演奏を解除する時

デュアル演奏を解除する時は、音色セレクトﾎﾞﾀﾝのどれか1つを選んで押し直せば、その押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

■ デュアル バランスの調整

ここでは、デュアル演奏時での2つの音色の音量バランスを調節します。

ステップ 1　デュアルバランスの設定をします。

設定は、鍵盤を弾き音を聴きながらテンポｽﾗｲﾀﾞｰ⑨で行います。
テンポｽﾗｲﾀﾞｰを左側に動かすと、パネル音色ボタンの左側音色の音量、右側に動かすと、パネル音色ボタンの右側音色の音量が大きくなります。

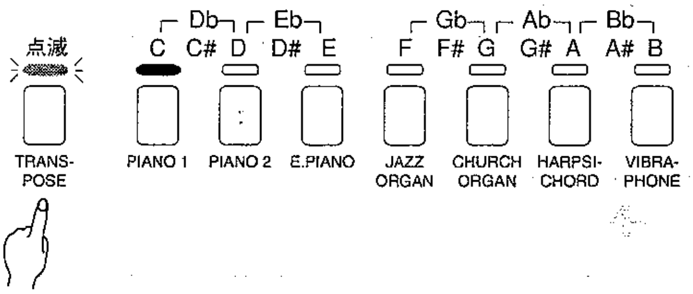
> ■ テンポｽﾗｲﾀﾞｰで、デュアル演奏時に、重ね合わさった音の音量バランスの調節をすることができますが、通常の演奏時は、メトロノームのテンポ値を設定するのに使用します。
> デュアル演奏時にメトロノームを鳴らした場合は、メトロノームボタンを押しメトロノームが鳴り始めた時よりテンポｽﾗｲﾀﾞｰは、テンポの値を設定するためのスライダーとなります。この時音量のバランスは、メトロノームを鳴らす以前に設定した値に固定され、メトロノームを止めないと調節することはできません。
> ■ ここで設定したバランスは、デュアル演奏時の全ての音色の組み合せに共通です。
> ■ このモードで、テンポｽﾗｲﾀﾞｰを動かしても、メトロノームのテンポには影響しません。

3）トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。
付属の早見表を本機に貼付けると操作がわかりやすくなります。

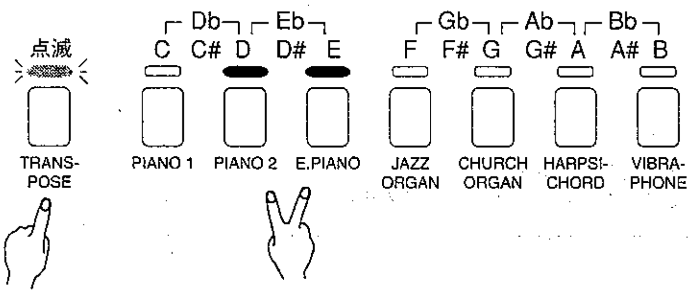
ステップ 1　TRANSPOSE ボタン③を押し続けます。

TRANSPOSE ボタン のランプが点滅し、現在セットされている調のランプが点灯します。



■ 電源ON時はハ長調（C）に設定されます。

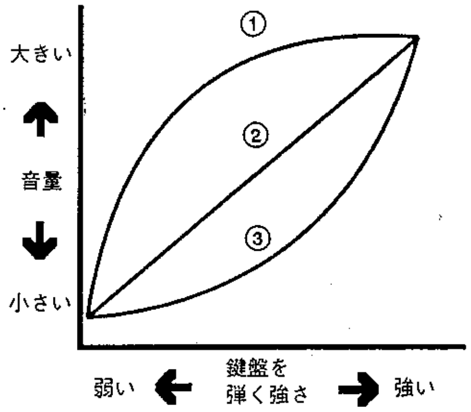
ステップ 2　TRANSPOSE ボタン を押したまま変更したい調のボタンを押します。
#の付いた中間の調に変更したい時はその調の両脇のボタンを同時に押します。



■ 上の例では、D#が選択されています。
■ TRANSPOSE ボタン のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。

4）タッチカーブ

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。
本機では、3種類のタッチカーブを選ぶことができます。

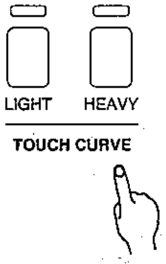


① LIGHT（ライト）：弱いタッチで弾いても大きな音がでます。小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きのタッチカーブです。

② NORMAL（ノーマル）：アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。

③ HEAVY（ヘビー）：強いタッチで弾くと大きな音が出ます。指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

ステップ 1　TOUCH CURVE②のLIGHT ﾎﾞﾀﾝ または、HEAVY ﾎﾞﾀﾝ を押して
タッチカーブを選びます。



■ 選んだタッチカーブのボタンが点灯します。
どちらのランプも点灯していない時は、ノーマルが選択されています。

ステップ 2　タッチカーブをノーマルに戻したい時は、現在選ばれている
タッチカーブのボタンを再度押して、ランプを消します。

■ 電源ON時は、タッチカーブはノーマルに設定されています。

5）デモ曲の演奏

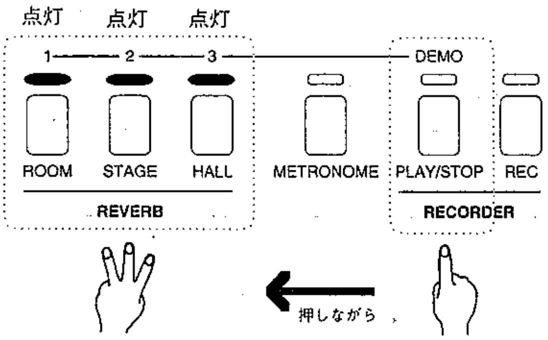
本機には、スーパーＶＭ音源のすばらしさを生かした３つのデモ曲を内蔵しています。

曲番号	内容	作曲者	選択ボタン
1	華麗なる大円舞曲	（ショパン）	ROOM REVERB
2	アラベスク第1番	（ドビュッシー）	STAGE REVERB
3	12の練習曲作品10第4番	（ショパン）	HALL REVERB

ステップ 1　デモ曲を聴くには．．．

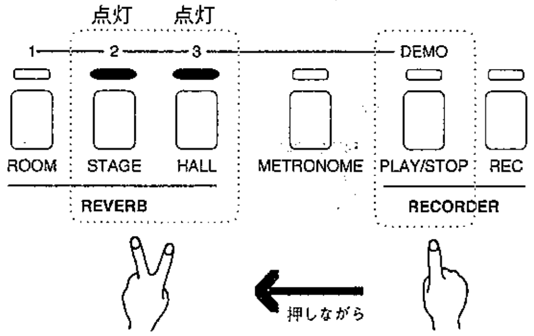
RECORDER の PLAY/STOP, DEMO ﾎﾞﾀﾝ（⑧の左側）を押しながら、聴きたい曲の選択ボタンを押します。

［例］　3曲のデモを全部聴きたい場合



■３曲のデモ曲が １→２→３→１→２→．．．と繰り返して演奏されます。

［例］　デモ曲2と3を聴きたい場合

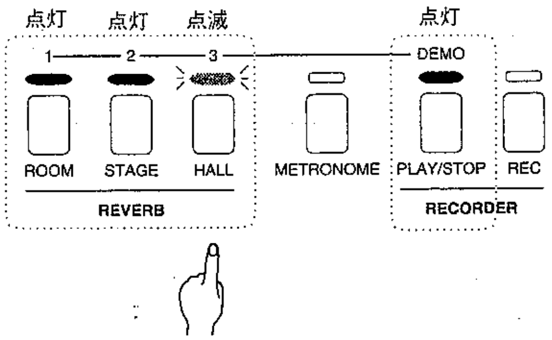


■３曲のデモ曲が ２→３→２→３→２→．．．と繰り返して演奏されます。

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ から手を離すと、演奏が始まります。
ランプが点滅している曲が、演奏中、点灯している曲は待機中です。

ステップ 2　曲の順番をとばすには．．．

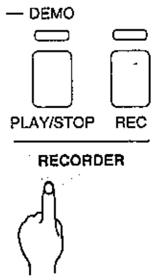
演奏中に、点灯または点滅している曲選択ボタンを押して、曲を選ぶことができます。



■ この図では、演奏している曲がデモ曲3に変ります。
■ " ステップ1 " で選んでない曲を、" ステップ2 " で選ぶことはできません。
■ デモ曲演奏中は、リバーブの変更はできません。

ステップ 3　デモ曲の演奏を止めるには．．．

もう一度PLAY/STOP, DEMOボタン（⑧の左側）を押すとデモ曲が止まります。

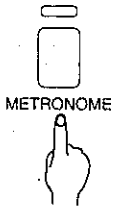


6）メトロノーム

メトロノームで楽しく練習しましょう。

ステップ 1　METRONOME ﾎﾞﾀﾝ⑦を押します。

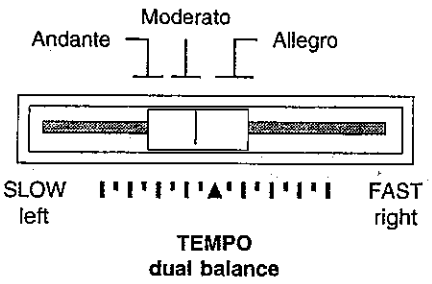
4/4拍子のメトロノームが鳴ります。



■ メトロノームの拍子を3/4拍子や1/4拍子にかえたい方は、30 ページを参照してください。
■ メトロノームの音量を調整したい方は、29 ページを参照してください。

ステップ 2　テンポを調整します。

メトロノームを聞きながらテンポ ｽﾗｲﾀﾞｰ⑨を左右に動かし好みのテンポに合わせます。



■ テンポを希望の数値に合わせたい方（例えば ♩=135にピッタリと合わせたい等）は、次ページを参照ください。

ステップ 3　METRONOME ﾎﾞﾀﾝ をもう一度押すと、ランプが消え、メトロノームが止まります。

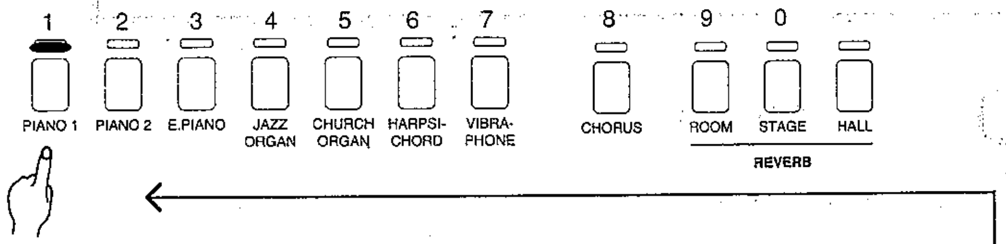
テンポを希望の数字に合わせたい方（例えば ♩=135にピッタリと合わせたい等）は次の方法で設定して下さい。
付属の早見表を本機のパネルに貼り付けると操作がわかりやすくなります。

■ ♩=135 に合わせたい場合

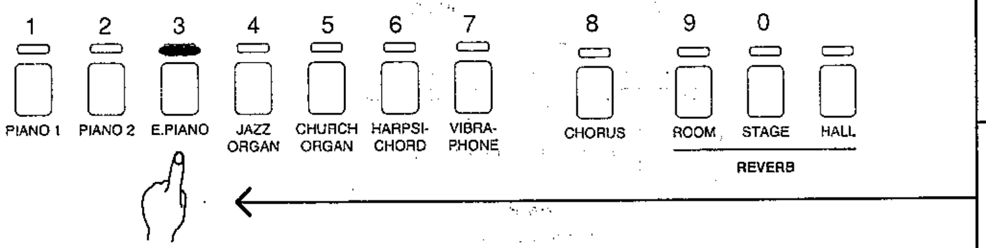
ステップ 1　右手でMETRONOME ボタン⑦を押しながら、左手で図のように順々にボタンを押していきます。

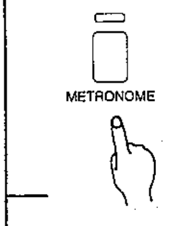
〔例〕 テンポを135に設定する場合

1） 初めに"1" ボタン（100の位）のボタンを押します。

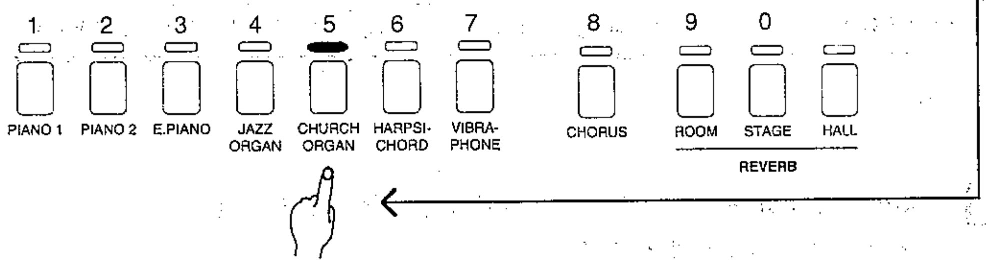


2） 次に"3" ボタン（10の位）を押します。





3） 次に"5" ボタン（1の位）を押します。



ステップ 2　両手を離すとテンポが ♩=135 に設定されます。

■ テンポ設定範囲は、♩= 40 ～ 200 です。

■ テンポ設定時は、パネルのテンポスライダーの値は無視されますが、設定後にテンポスライダーを動かすとテンポはスライダーに従います。

3.録音・再生してみましょう。

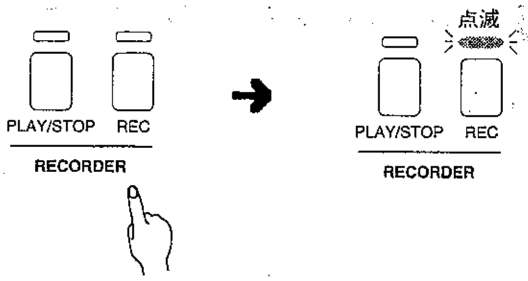
本機では、自分の演奏を5曲まで、録音し再生することができます。
それぞれの曲は、2つのパートから構成されています。従って、1曲に2回の演奏を重ね合わせて録音ができます。
通常録音は、録音する曲の番号とそのパートを選択して行います。
再生も5つの曲から再生を行う曲を選んだ後、2つのパートのどちらかもしくは両方を選び再生を行います。
しかし、1曲目への録音/再生する時は、曲を指定せずに（カンタン録音/再生）録音/再生できます。

1）カンタン録音（1曲目への録音）

本機では、1曲目へ録音する場合、録音エリアを指定せずにカンタンに録音できます。
カンタン録音を行う時、パートはパート1に固定されます。

ステップ 1　録音準備を行います。

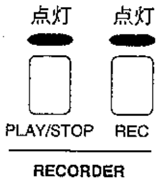
RECﾎﾞﾀﾝ（⑧の右側）を押します。



手を離すとRECﾎﾞﾀﾝのランプが点滅し、
録音待機状態になります。

ステップ 2　録音を開始します。

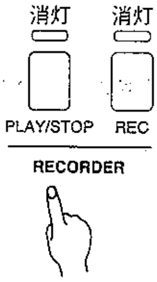
鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
RECﾎﾞﾀﾝとPLAY/STOPﾎﾞﾀﾝ（⑧の左側）のランプが点灯します。



■ " ステップ1 " の後にPLAY/STOPﾎﾞﾀﾝを押しても録音がスタートします。

ステップ 3　録音を終了します。

演奏が終ったらPLAY/STOPﾎﾞﾀﾝを押します。



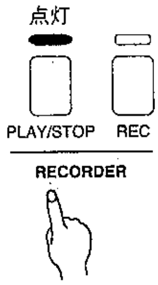
■ RECﾎﾞﾀﾝとPLAY/STOPﾎﾞﾀﾝのランプが消え、録音がストップします。

2) カンタン再生 (1曲目の再生)

カンタン録音で録音を終えたらカンタン再生で再生してみましょう。

ステップ 1　　カンタン再生します。

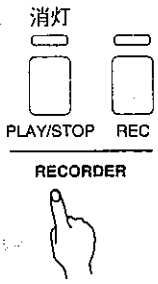
PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ (⑧の左側) を押します。



■ 録音時の音色で再生が始まります。
■ テンポｽﾗｲﾀﾞｰ⑨で再生するテンポを調節できます。

ステップ 2　　再度 PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ (⑧の左側) を押すと再生がストップします。

再度 PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押すと再生がストップします。



■ 演奏が終了したら自動的に再生がストップします。

■ 録音する前にメトロノームを鳴らしておくと、メトロノームにあわせて録音ができます。
(メトロノームの音は録音されません。)

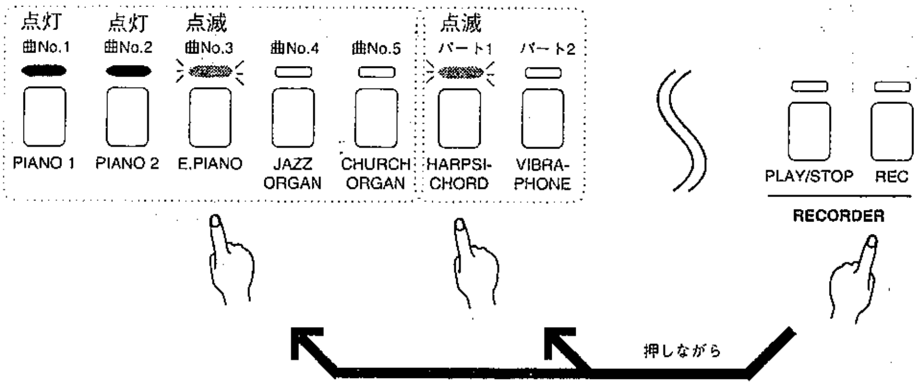
■ 一度録音して、再び録音を行うと、先に録音しておいた曲が消えてしまいます。

3） 通常の録音（曲 No.2 ～ 5 曲目への録音）

ここでは、1曲目以外の曲No.2 ～ 5へ録音する場合の方法を説明します。
付属の早見表を本機のパネルに貼り付けると操作がわかりやすくなります。

ステップ 1　録音準備を行います。

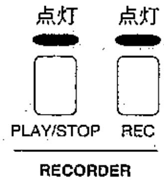
REC ﾎﾞﾀﾝ（⑧の右側）を押しながら曲No.ﾎﾞﾀﾝを押せば、録音曲No.選択状態となります。
曲No. ﾎﾞﾀﾝとパートﾎﾞﾀﾝは、下図の様に音色ボタンに対応しており、例えば3曲目のパート1へ録音したい場合は下図の様な操作をしてください。



指定した曲No.ボタンとパートボタンが点滅し、録音される曲No.とパートを示します。RECボタンを離すと録音待機状態となりRECボタンが点滅します。また音色ボタン（設定する以前に選択していた音色）が点灯します。この音色で録音を行うことになります。

> ■この時、パート2へ録音したい場合は、REC ﾎﾞﾀﾝを押しながらパート2ﾎﾞﾀﾝを押して点滅させてください。
> また、どちらかのパートに既に録音されており、その録音曲を再生しながら未録音のパートへ録音する場合は、再生する方のパートボタンを押して点灯させ、録音したいパートを点滅させます。
> また、既に録音済の曲の番号のボタンは、点灯しています。上図では、曲No.1と2には、既に曲が録音されていることが分かります。

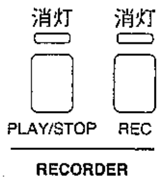
ステップ 2　録音を開始します。



鍵盤を弾くと自動的に録音が開始されます。
このときREC ﾎﾞﾀﾝ（⑧の右側）とPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ（⑧の左側）が点灯します。

鍵盤を弾かずにPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押して録音をスタートさせることもできます。

ステップ 3　録音を終了します。



演奏が終ったらPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押して録音をストップします。
REC ﾎﾞﾀﾝとPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝのランプが消え、録音がストップします。

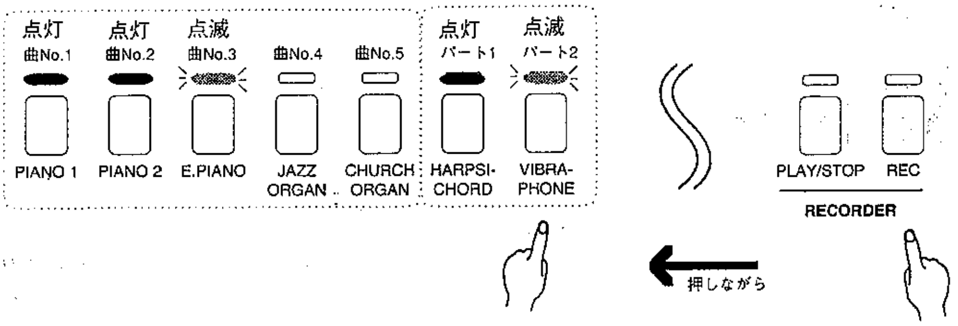
> ■ 既に録音済曲No. のパートを選んで新たに録音を行うと、以前の録音曲は消えてしまいます。

■ ひき続き、パート1 に録音した演奏を聞きながら、パート2 の録音をしてみましょう。

本機では、1曲は、2つのパートから構成されてますので、1曲につき2回の演奏を録音できます。
"ステップ1" から "ステップ3" までの操作で、3曲目 のパート1 へ演奏を録音しましたが、ひき続き3曲目のパート2 へ演奏を録音しましょう。

ステップ 4　パート2 への録音準備を行います。

REC ボタン（⑧の右側）を押しながらパート2 ボタン（ VIBRAPHONE ボタン）を押せば、録音待機状態となります。

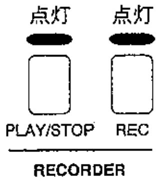


指定した曲No.3 ボタン とパート2 ボタン が点滅し、録音される曲No. とパートを示します。
また、パート1 ボタン が点灯していますが、"ステップ3" までの操作で録音したパート1 の曲の再生待機状態であることを示しています。

ステップ 5　パート2への録音を開始します。

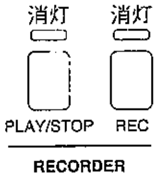
鍵盤を弾くと自動的にパート2 の録音が開始され、同時にパート1 が再生されます。
このときREC ボタン とPLAY/STOP ボタン（⑧の左側）が点灯します。

鍵盤を弾かずにPLAY/STOP ボタン を押して録音をスタートさせることもできます。



ステップ 6　録音を終了します。

演奏が終ったらPLAY/STOP ボタン（⑧の左側）を押して録音をストップします。
REC ボタン とPLAY/STOP ボタン のランプが消え、パート2 の録音とパート1 の再生がストップします。



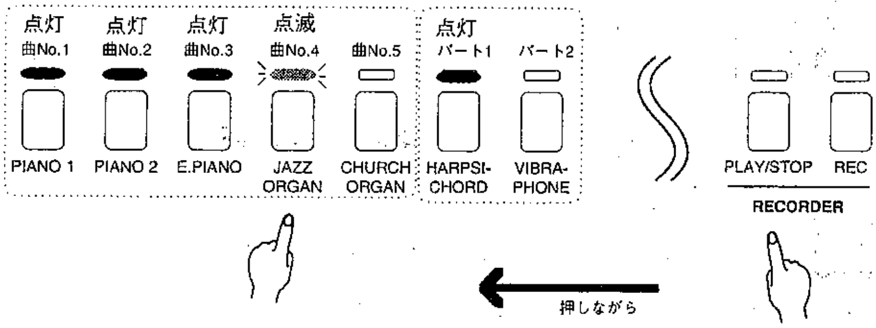
4）通常の再生（曲 No.2 ～ 5 の再生）

ここでは、1曲目以外の（2曲目 ～ 5曲目）へ録音された曲を再生する場合の方法を説明します。

ステップ 1　録音した曲を再生します。

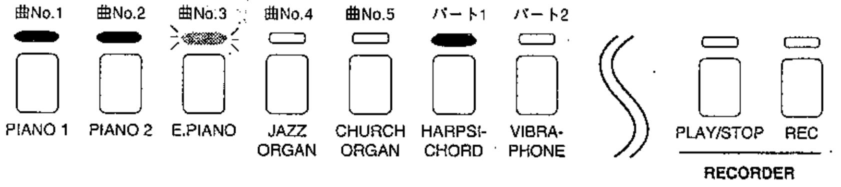
PLAY/STOP ボタン（⑧の左側）を押しながら再生をする曲No. ボタンを押します。
この2つのボタンから手を離すと再生が開始されます。

例えば4曲目を再生したい場合は、下図の様にPLAY/STOP ボタン を押しながらJAZZ ORGAN（曲No. 4）ボタンを押して離します。



上の図では、パート1 が点灯していてパート2 が消灯しています。これはパート2が未録音であることを示しています。この場合、4曲目のパート1 に録音されている曲が再生されます。パート2 にも録音がされており、パート1 と合わせて再生したい場合は、PLAY/STOP ボタン を押しながらパート2 ボタン を押して点灯させてください。

■曲番号ボタン / パートボタンとランプの関係



◆ 上図の様な場合、それぞれの曲の状態は以下の通りです。

・1曲目，2曲目	（ランプ点灯）	：	既に演奏が録音されている曲。
・3曲目	（ランプ点滅）	：	今から再生（録音）を行う曲。
・4曲目，5曲目	（ランプ消灯）	：	曲が録音されていない曲。

◆ また、点滅中の3曲目のボタンのパートの状態がパート1、2 のランプに示されます。

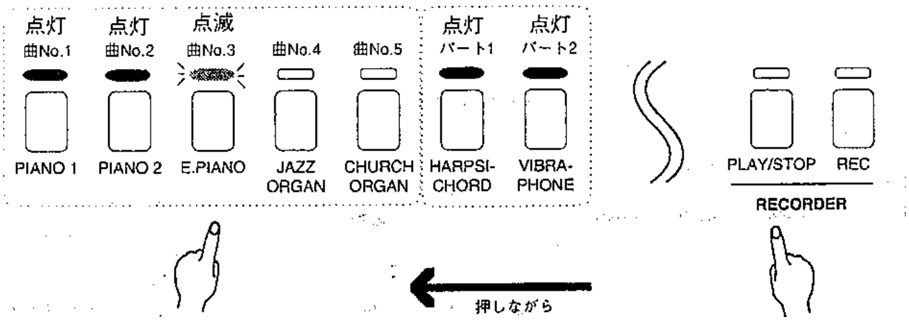
・パート1	（ランプ点灯[点滅]）	：	今から再生[録音]されるパート。
・パート2	（ランプ消灯）	：	録音されていないパート、またはミュートされているパート。

5） パート別の再生 (パートのミュート)

録音をした曲を再生する場合、パートをミュートして音を出さないようにすることができます。
次よりパート1、2の両方録音されている3曲目のパート2をミュート（消音）する操作を説明します。

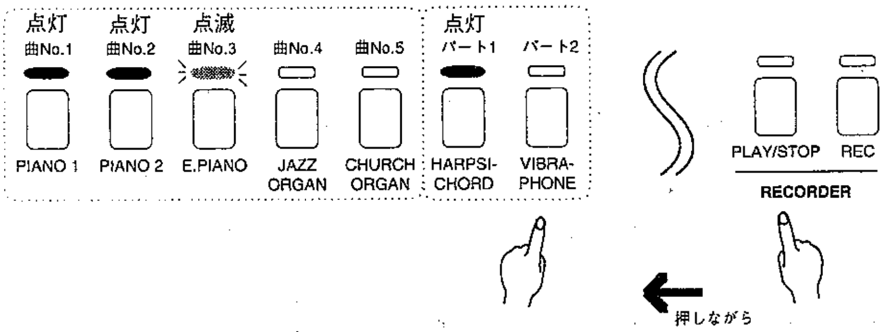
ステップ 1　再生をする曲No.ボタン（曲No.3）を選択します。

PLAY/STOP ボタン（⑧の左側）を押しながら再生をする曲No. ボタンを押します。



ステップ 2　パート2 のミュート設定を行います。

上の図の状態でPLAY/STOP ボタンを押したままパート2ボタンを押します。
するとパート2ボタンのランプが消えパート2が再生時にミュートされることを示します。



ステップ 3　曲No.3のパート1を再生します。

両手をボタンから離すと3曲目のパート1 のみ再生されます。

■ パートミュートの補足

本ページでは、パート2のミュート方法を説明しましたがパート1をミュートする場合も同様に
STEP2 の操作でパート1ボタンを押してランプを消して再生してください。

◆ パートボタンのランプと再生パートの関係

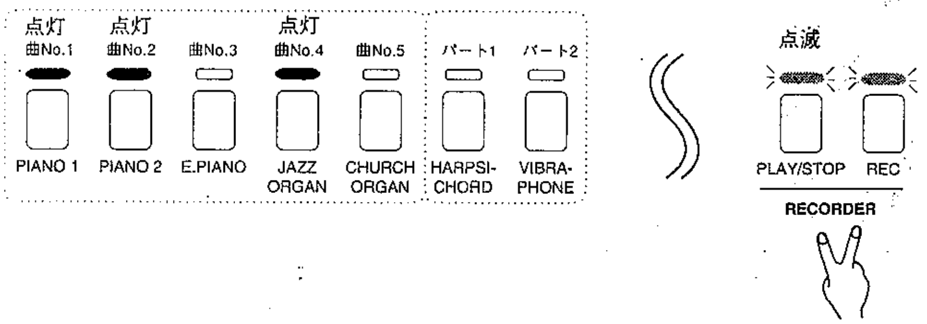
＊ ミュート時の音量を調節したい方は、P. 31 を参照ください。

6） 曲の消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲を1曲ずつ消去します。

ステップ 1　PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ（⑧の左側）とREC ﾎﾞﾀﾝ（⑧の右側）を同時に押します。

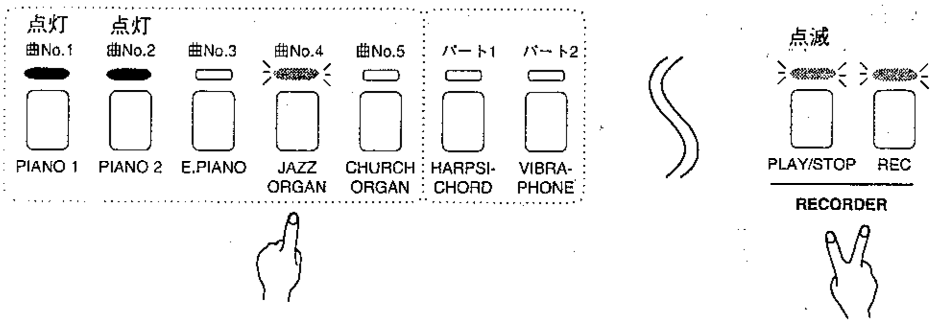
PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を同時に押すと録音されている曲のランプが点灯します。
下図では、曲No. 1, 2, 4 が録音されていることになり、逆に曲No. 3, 5 が録音されてないこととなります。



■ PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を同時に押したまま、" ステップ2 " へ進んでください。

ステップ 2　消去する曲No.を選択します。

次に、PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を押したままの状態より、消去する曲No. ﾎﾞﾀﾝ を押して点滅させます。
（下図では、曲No. 4へ録音した曲を消去する操作となっています。）



■ 消去を中止したい時は、PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とRECボタンを同時に押したまま、もう一度点滅している曲No. ﾎﾞﾀﾝ を押して点灯させます。

ステップ 3　消去完了。

両手をボタンから離すと 曲No.4へ録音されている曲が消去されます。

■ 複数の曲を消去するときは、" ステップ1～3 " の動作を繰り返してください。

■ レコーダーの総記憶容量は、約5,000音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。

■ レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切って一週間ほど電源を入れないでおくとレコーダーの内容が消えてしまう場合があります。

■ 録音されているすべての曲を消去したい場合は、PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を押したまま、電源を入れてください。

4. その他の機能の使い方（設定モード）

本機には、いろいろなピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
この設定を行う場所を"設定モード"といい、この設定モードでは以下のメニューの設定を行うことができます。

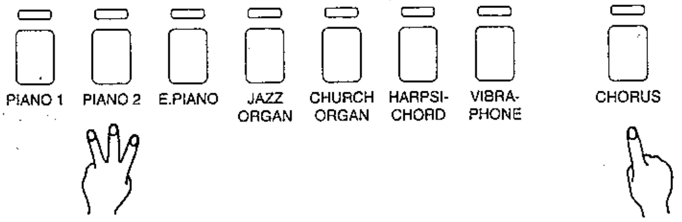
1) チューニング
2) 音律の設定
3) メトロノームボリューム
4) メトロノームの拍子
5) レコーダーのミュートボリューム
6) MIDI送信・受信チャンネル
7) プログラム(音色)ナンバー送信
8) マルチ・ティンバー・モード
9) マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音
10) ローカルコントロール

次より上記各設定を行う粗筋を説明します。

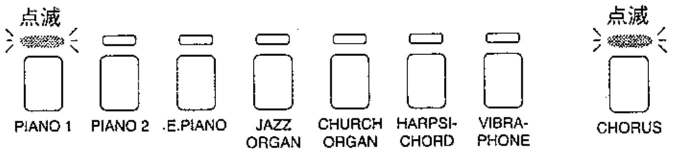
(1) はじめに"設定モード"へ入ります。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。

CHORUSボタン⑤を押しながらPIANO1、PIANO2、E.PIANOボタンを同時に押します。
（どの音色セレクトボタン④が点灯していてもかまいません。）



すると、CHORUSボタンとPIANO1ボタンが点滅し設定モードに入ったことを示します。

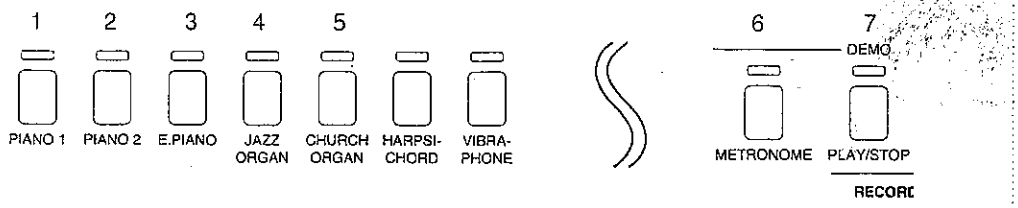


■PIANO1のランプの点滅は、後で説明するプログラムナンバー送信の設定モードにセットされたことを示します。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

(2) 次に各設定メニューを選びます。

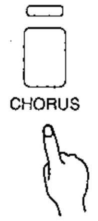
1) で"設定モード"に入った後、各設定メニューを選びます。
この各設定メニューは、下図の通り各音色セレクトボタン④に対応しており、そのボタンを押すことにより選択します。



1. プログラムナンバーの送信のオン/オフ
   パネル操作の送信のオン/オフ
2. MIDIチャンネルの設定
   マルチティンバーモードのオン/オフ
3. ローカルコントロールのオン/オフ
   マルチティンバー2各チャンネルのオン/オフ
4. チューニングの調整
5. 音律の設定
6. メトロノームボリュームの設定/拍子の設定
7. レコーダーのミュートボリュームの設定

(3) "設定モード"からの出かた

CHORUSボタン⑤を再度押します。
ランプの点滅が消え"設定モード"から出ます。



"設定モード"から出ると、"設定モード"に入る前の状態に戻ります。

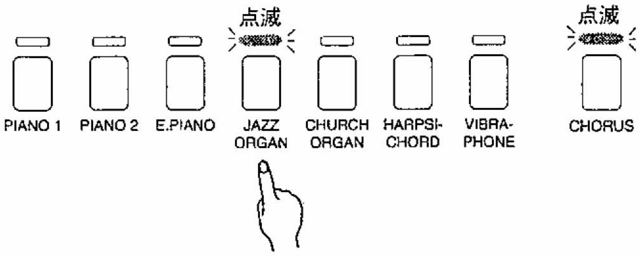
■CHORUSボタンを押さずに他の音色セレクトボタンを押せば、引き続き他の設定モードに移ることができます。

1) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

ステップ 1　"設定モード"に入ります。(P.24参照)

ステップ 2　JAZZ ORGAN ﾎﾞﾀﾝを押します。

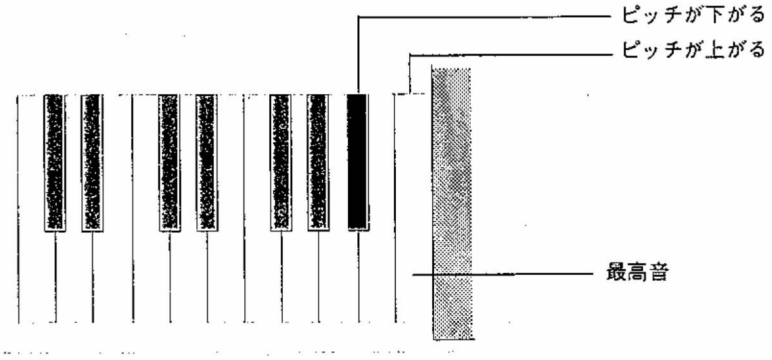


JAZZ ORGANが点滅し、チューニングのメニューが選ばれました。

■この状態で鍵盤を弾くと、"設定モード"にはいる前に選ばれていた音色が鳴ります。
チューニング調整は、この音色を使って行います。音色を変えたい場合は一度"設定モード"から出て音色を選びなおしてから、再度"ステップ1"、"ステップ2"の操作を行います。

ステップ 3　チューニングを調整します。

右端の白鍵を押すごとにピッチが少しずつ上がります。また、右端の黒鍵を押すごとにピッチが少しずつ下がります。



■ チューニングできる範囲は、+50セントです。(100セント=半音)。1回押すごとに100/64セント変化します。

ステップ 4　設定終了後、"設定モード"からでます。(P.25参照)

■ 電源をオンし直すとチューニングは元に戻ります。

※ 440Hzです。

2）音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を全部で6種類本体にセットしています。

本機にセットされている音律は以下の通りです。

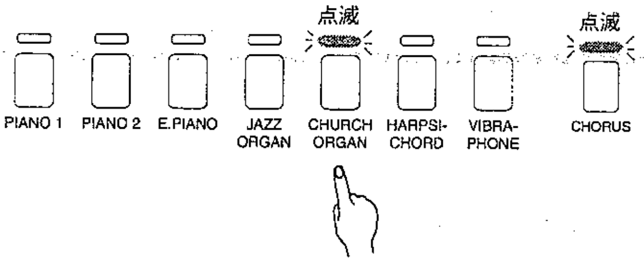
■各音律の特長

◆ 平均律	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変らないという特長があります。
◆ 純正律	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ ピタゴラス音律	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
◆ 中全音律	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ ヴェルクマイスター第III法 キルンベルガー第III法	調合の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調合が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。

次より設定方法を説明していきます。

ステップ 1 " 設定モード " に入ります。（P.24 参照）

ステップ 2 CHURCH ORGAN ボタンを押します。

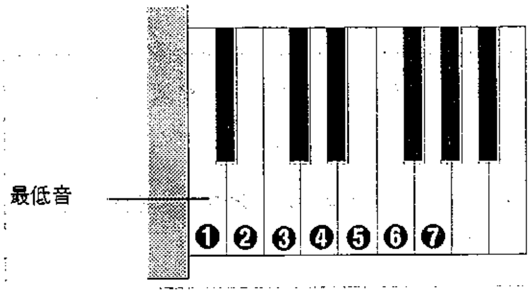


CHURCH ORGAN ボタンが点滅し、音律設定のメニューが選ばれました。

■この状態で鍵盤を押しても音がでません。

ステップ 3　音律の設定を行います。

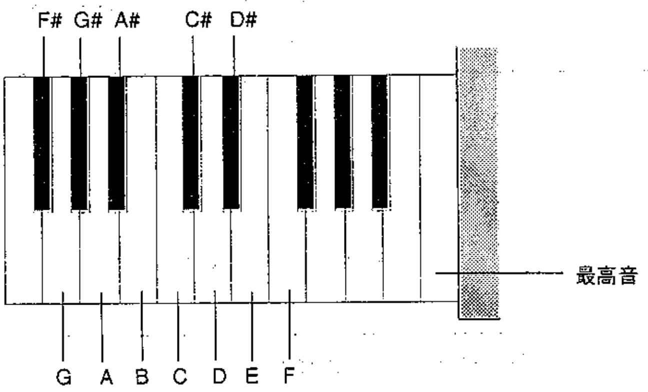
音律の設定は左端から7個の白鍵を使用します。
その7個の白鍵にはそれぞれ、以下のように7種類の音律が対応しています。
設定する音律の対応しているボタンを押して設定を行います。



❶ 平均律（調律曲線を使わない平坦な平均律）
❷ 純正律
❸ ピタゴラス音律
❹ 中全音律
❺ ヴェルクマイスター第III法
❻ キルンベルガー第III法
❼ 平均律（電源ON時のピアノ調律曲線に沿った平均律）

■ 電源ON時は、平均律(ピアノの調律曲線に沿った平均律) にならっています。

■ 調の設定は、音律が設定されている場合、このモードの状態で下図の鍵盤を使って行います。
電源をオンにして初めて音律設定を行ったとき、調は各音律のC調になります。
この調を例えばDに変えたいときは、下図のDの鍵盤を押してください。



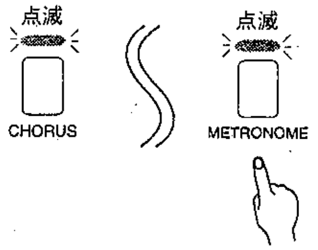
ステップ 4　設定終了後、" 設定モード " からでます。 (P.25 参照)

3）メトロノームボリューム

メトロノームのボリュームはVOLUME 1 で調節できますが、鍵盤の音に対するバランス設定は、以下の手順で行います。

ステップ 1　" 設定モード " に入ります。(P.24 参照)

ステップ 2　METRONOME ﾎﾞﾀﾝ⑦を押します。

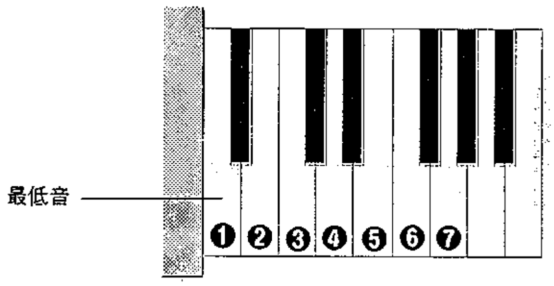


メトロノームが鳴りMETRONOME ﾎﾞﾀﾝが点滅し、メトロノームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3　メトロノームボリュームの音量を設定します。

ボリュームの設定は左端から7個の白鍵を使用します。



■ボリュームは、'❶' が一番小さく '❼' が一番大きい設定となっています。
'❹' が電源オン時の設定です。

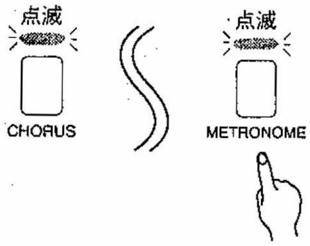
ステップ 4　設定終了後、" 設定モード " からでます。(P.25 参照)

4) メトロノームの拍子

メトロノームの拍子を、4/4、3/4、1/4の3種類の中から選択します。

ステップ 1　" 設定モード " に入ります。(P.24 参照)

ステップ 2　METRONOME ボタン⑦を押します。

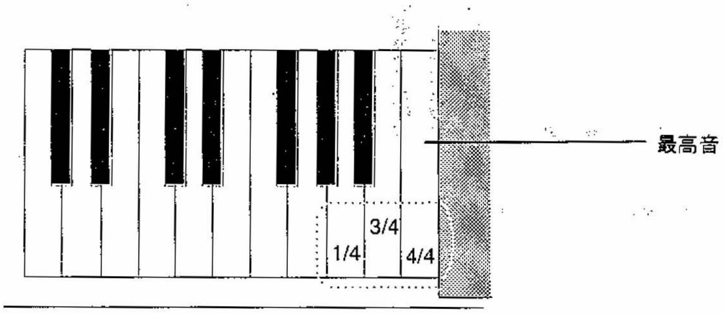


メトロノームが鳴りMETRONOME ボタンが点滅し、メトロノームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3　メトロノームの拍子を3種類の中から選択します。

拍子設定は右端から3個の白鍵を使用します。



■電源オン時、拍子は4/4に設定されています。

ステップ 4　設定終了後、" 設定モード " からでます。(P.25 参照)

*テンポを変えるには...

[REC] ボタン、または [PLAY/STOP] ボタンを押しながら、[E.PIANO] ボタンを押します。押すごとにテンポが遅くなります。
また、押し続けると徐々にテンポが遅くなります。

[REC] ボタン、または [PLAY/STOP] ボタンを押しながら、[CHURCH ORGAN] ボタンを押します。押すごとにテンポが速くなります。
また、押し続けると徐々にテンポが速くなります。

*メトロノーム音を消すには...

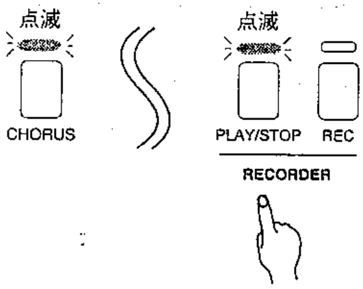
[REC] ボタンを押しながら、[HARPSICHORD] を押します。再び押すとメトロノーム音が発音に戻ります。

5）レコーダーのミュートボリューム

ここでは、録音曲の再生時にミュートしたパートの音量を設定します。

ステップ1　"設定モード"に入ります。（P.24 参照）

ステップ2　PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ（⑧の左側）を押します。

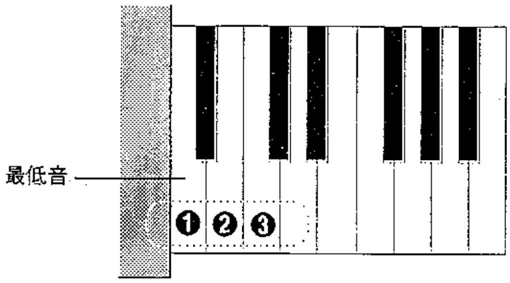


PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ が点滅し、レコーダーのミュートボリュームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ3　ミュートボリュームの設定をします。

ミュートボリュームの設定は、左から3個の白鍵を使用します。
ボリュームは、❶ が一番小さく❸が一番大きい設定となっています。❷が電源オン時の設定です。



ステップ4　設定終了後、"設定モード"からでます。（P.25参照）

■ MIDI機能の使い方

ここで、MIDIについて説明をしておきます。

■MIDIについて

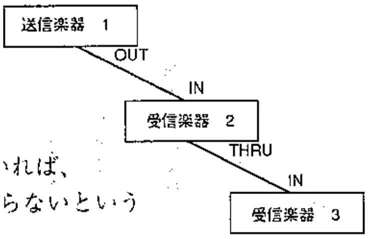
MIDIについて簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

MIDI端子には、IN, OUT, THRU の3つの種類があります。いずれもMIDI専用ケーブルで接続します。

IN	：	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	：	鍵盤情報や音色情報を送信します。
THRU	：	受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDIには、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

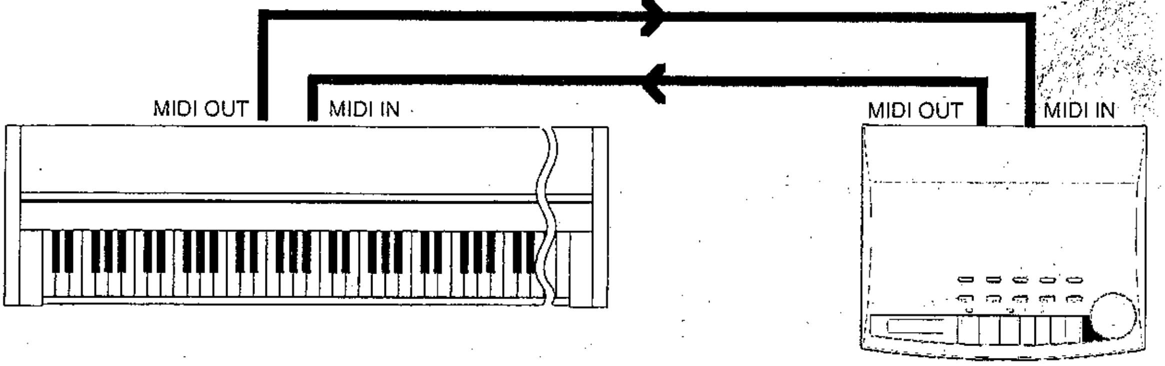
例えば3台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



送信楽器1 は送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器2， 3 に送ります。受信楽器2， 3 にはこの情報が送られて来ます。基本的には受信楽器2， 3 の受信チャンネルと送信楽器1 の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。
チャンネル番号は、送信，受信とも１ ～ １６までの番号を使用することが出来ます。

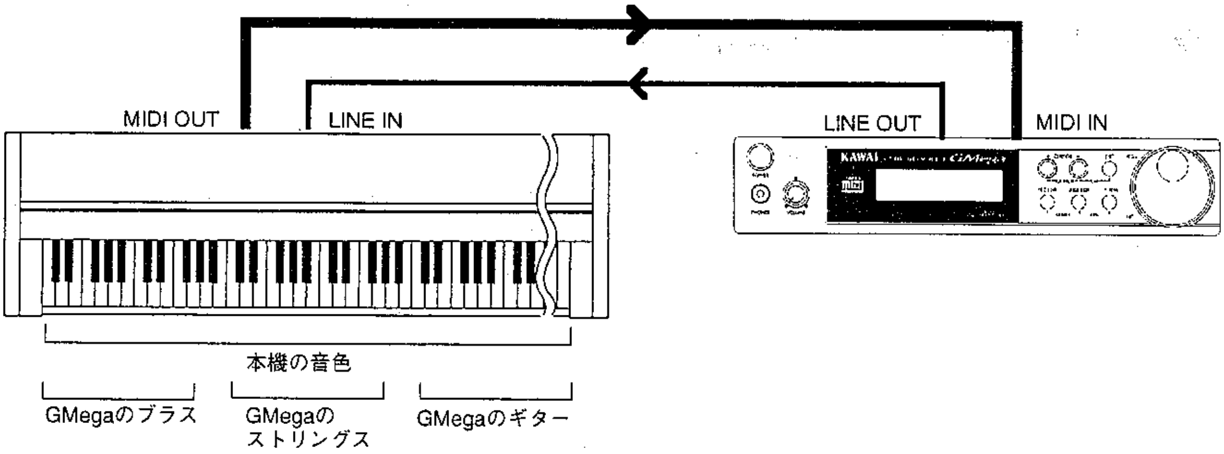
■MIDIの使用例

(1)　シーケンサーを使っての録音/再生



図の様に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。
また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.39 参照）にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。シーケンサーにカワイQ-55を使用した場合、Q-55側のボタンひとつで簡単にアンサンブル録音/再生が可能です。シーケンサーの取扱についてはシーケンサーの取扱説明書をお読みください。

(3)　シンセサイザー音源モジュールとのプレイ



図のように接続すれば、前例（2）のような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を分割して演奏することができます。
この場合 GMega は、3音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。GMega の取扱いについては、GMega の取扱説明書をお読みください。なお、カワイ音源モジュール K4r でも同様のことができます。

■本機MIDI機能

本機のMIDI機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信
電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定
送信受信チャンネルを1～16の範囲で設定することができます。

◆ プログラム(音色)ナンバーの送信
電子ピアノとMIDIで接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信
ダンパーペダル、ソフトペダルのオン/オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌートペダルの場合は、オン/オフの送信ができます。

◆ ボリューム情報の受信
シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定
電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことが出来ます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信
レコーダーに録音した演奏を、MIDIで接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

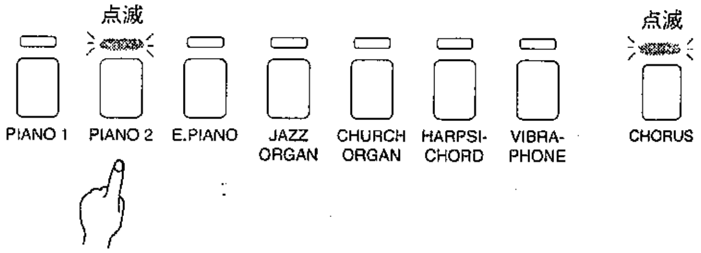
■ 本機のMIDI機能についての詳細は、"MIDIインプリメンテーションチャート"（巻末）をご覧ください。

6）MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの2種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

ステップ 1　"設定モード"に入ります。(P.24 参照)

ステップ 2　PIANO2 ボタンを押します。

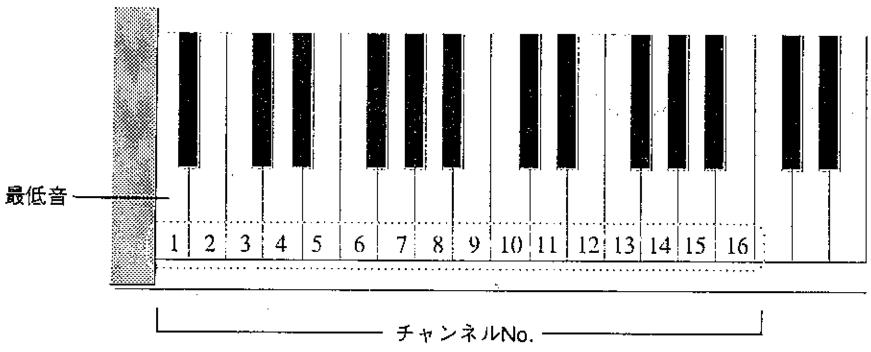


PIANO2 ボタンが点滅し、MIDIチャンネルおよびマルチティンバー設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3　設定したいチャンネルの鍵盤を押します。

MIDIチャンネルの設定は左端から16個の白鍵を使用します。



設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルともそのナンバーに設定されています。

ステップ 4　設定終了後、"設定モード"からでます。(P.25 参照)

■本機は電源オン時には、1～16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。
これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。

7）プログラム（音色）ナンバー送信

(1) 音色セレクト・ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

本機では、通常の演奏中に7個の音色セレクトボタンを切り替えることにより、下表のような0~6までのプログラムナンバーを送信できるようになっています。

音色セレクトボタン	プログラム・ナンバー
PIANO1	0
PIANO2	1
E.PIANO	2
JAZZ ORGAN	3
FULL ORGAN	4
HARPSICHORD	5
VIBRAPHONE	6

また音色セレクト・ボタン以外にも、タッチカーブ、エフェクト（コーラス、リバーブ）のボタン操作をMIDIエクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか（オン / オフ）を設定することができます。

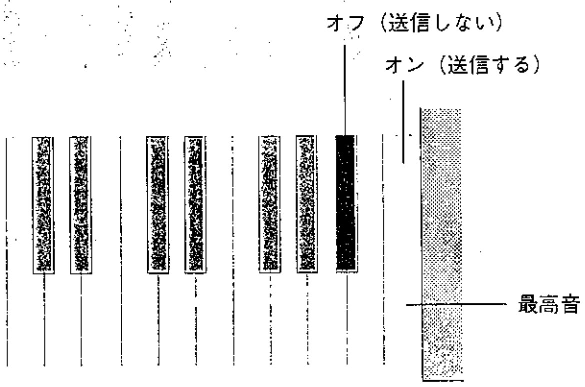
ステップ 1　" 設定モード " に入ります。(P.24 参照)

PIANO1 ボタンの点滅は、プログラムナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 2　オン/オフの設定。

オンに設定する場合は、右端の白鍵を押してください。
オフに設定する場合は、右端の黒鍵を押してください。



ステップ 3　設定終了後、" 設定モード " からでます。(P.25 参照)

■電源オン時は、音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信は、自動的にオンにセットされます。

(2)　黒鍵を使用した送信

本機では、音色セレクトボタンによる送信の他に、黒鍵を使って0～127までのプログラムナンバーを送信することができます。

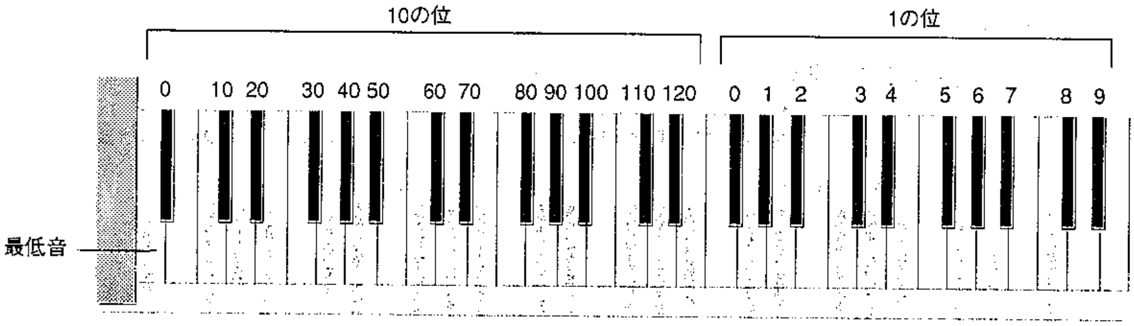
ステップ 1　"設定モード"に入ります。（P.24 参照）

設定モードに入った状態では、PIANO 1 ボタンが点滅していますが、これはプログラムナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

> ■その他の設定モード(CHORUSと他のランプが点滅)に続いて設定する場合は、PIANO1 ボタン を押してください。

ステップ 2　鍵盤を押してプログラムナンバーを送信します。

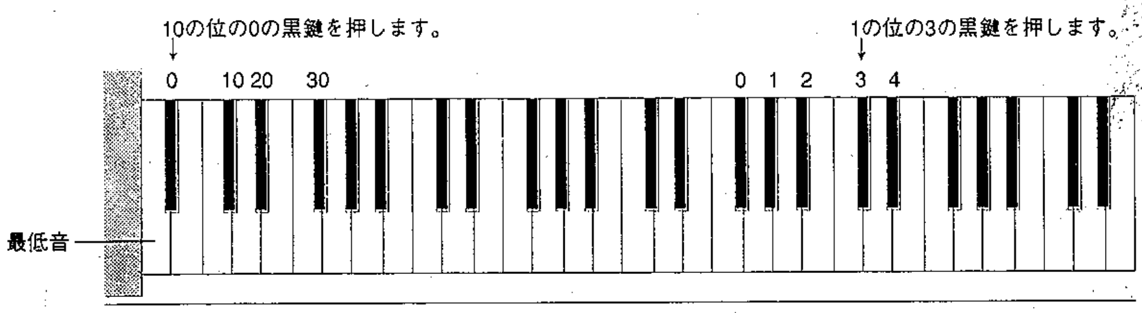
プログラムナンバー送信には、黒鍵を使用します。下図の様に、左端から13個の黒鍵で10の位（0～120）、次の10個で1の位（0～9）をセットします。10の位を押した後1の位を押すことにより、プログラムナンバーを送信します。



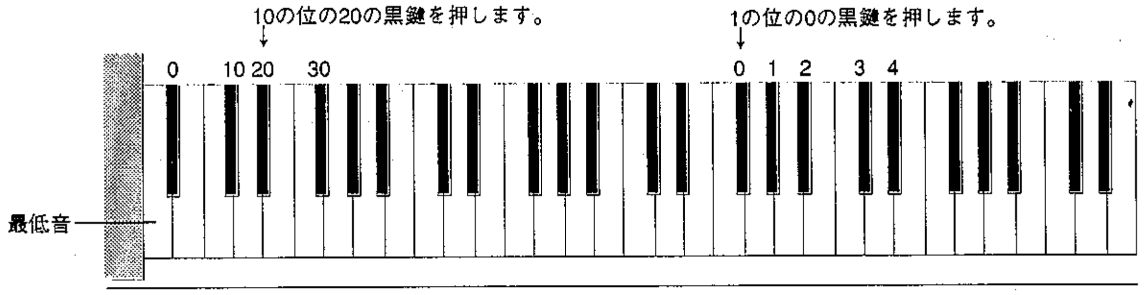
> ■10の位が共通なプログラムナンバーを送信する場合、10の位を押し直す必要は無く、1の位を押し直すだけでプログラムナンバーを送信することができます。
>
> ■"設定モード"に入ったときは、10の位は0にセットされています。

プログラムナンバー送信例

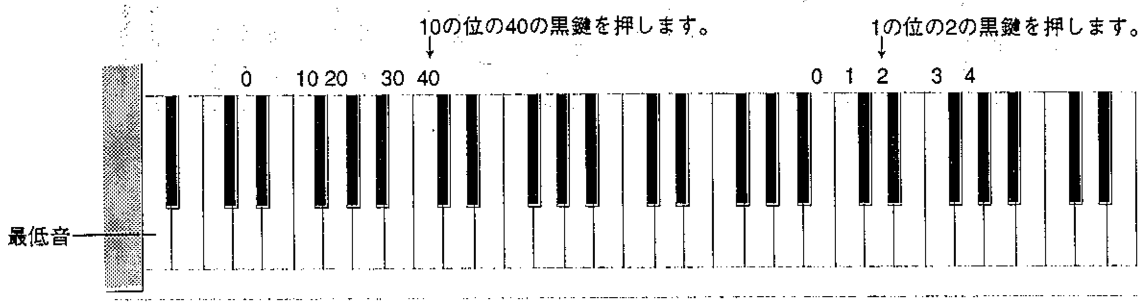
◆プログラムナンバー 3 を送信する場合



◆プログラムナンバー 20 を送信する場合



◆プログラムナンバー 42 を送信する場合



ステップ 3　設定終了後、" 設定モード " からでます。（P.25 参照）

■他のMIDI楽器からプログラムナンバーを受信したときには、プログラムナンバー送信のオン/オフに関係なく受信したプログラムナンバーに対応して 36 ページの表の音色セレクトボタンが点灯します。

8）マルチ・ティンバー・モード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。
この機能により、外部にQ-55などのシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチ・ティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。
本機には、2種類のマルチ・ティンバー・モードを装備しています。マルチ・ティンバー・モード1は、受信したMIDIチャンネルに対応して下記の［A表］の音色が鳴ります。マルチ・ティンバー・モード2は本機の他に別の音源モジュール等を使うMIDI上級者向けのモードです。各チャンネル毎に発音するかしないかを選択できます。また各チャンネル毎にプログラムチャンジ情報を受信することによって下記の［B表］に対応した音色変更をすることができます。マルチ・ティンバー・モード2では、最初2～10チャンネルの発音はオフになっています。

［A表］

ﾁｬﾝﾈﾙ No.	音色	ﾁｬﾝﾈﾙ No.	音色	ﾁｬﾝﾈﾙ No.	音色
1	PIANO1	7	VIBRAPHONE	13	BELL
2	PIANO2	8	STRINGS	14	WOOD BASS
3	E.PIANO	9	E.PIANO2	15	ELECTRIC BASS
4	JAZZ ORGAN	10	-	16	SLAP BASS
5	CHURCH ORGAN	11	CLAVI		
6	HARPSICHORD	12	PIPE ORGAN		

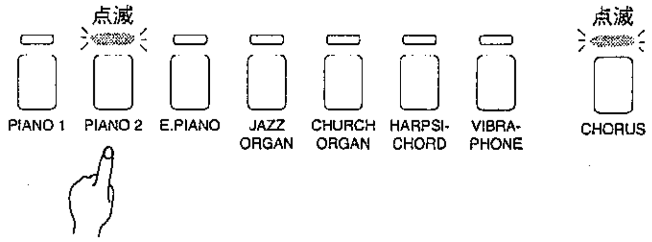
［B表］

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾁｪﾝｼﾞ No.	音色	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾁｪﾝｼﾞ No.	音色	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾁｪﾝｼﾞ No.	音色
0	PIANO1	6	VIBRAPHONE	12	WOOD BASS
1	PIANO2	7	STRINGS	13	ELECTRIC BASS
2	E.PIANO	8	E.PIANO2	14	SLAP BASS
3	JAZZ ORGAN	9	CLAVI	15～127	PIANO1
4	CHURCH ORGAN	10	PIPE ORGAN		
5	HARPSICHORD	11	BELL		

ステップ 1　"設定モード"に入ります。（P.24 参照）

ステップ 2　PIANO2 ﾎﾞﾀﾝ を押します。

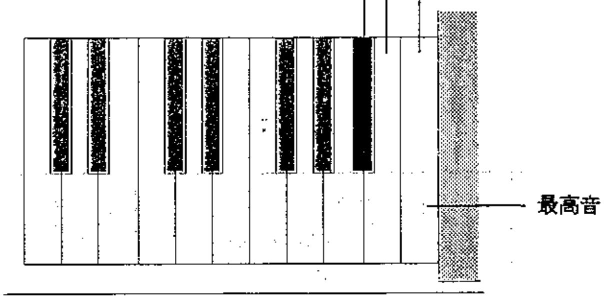
PIANO2 ﾎﾞﾀﾝ が点滅し、マルチ・ティンバー・モードの設定のメニューが選ばれました。（MIDIチャンネルの設定と同じです。）



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

ステップ3 オン/オフの設定をします。

右端より3つの鍵盤を使って設定します。
下図のように右端の白鍵を押すと、マルチ・ティンバー・モード1 がオン、右から2番目の白鍵を押すとマルチ・ティンバー・モード2 がオン、黒鍵を押すとオフになります。



マルチ・ティンバー・モード1 がオフのときに、MIDI情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクトボタンの音色が鳴ります。
マルチ・ティンバー・モード1 がオンのときは、どの音色セレクトボタンが選ばれていても受信したMIDIチャンネルに対応して前ページの［A表］の音色が無条件に鳴ります。
マルチ・ティンバー・モード2 がオンに設定されると、受信チャンネルごとに発音のオン/オフを設定することができます。

■電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

ステップ4 設定終了後、" 設定モード " からでます。（P.25 参照）

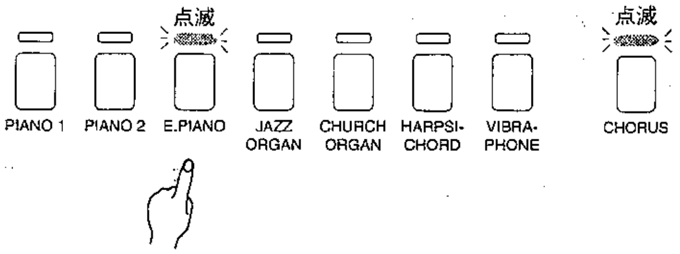
9）マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音

マルチ・ティンバー・モード2がオンに設定されていると、次の操作で各チャンネルの発音のオン/オフが設定できます。

ステップ 1　"設定モード"に入ります。（P.24 参照）

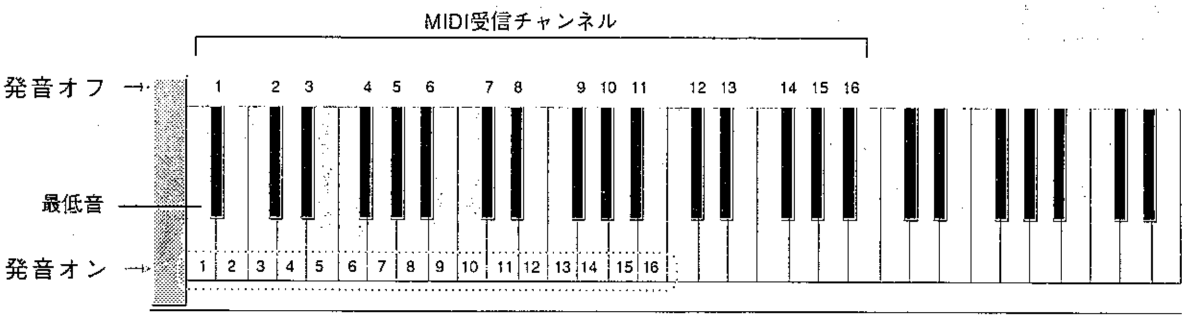
ステップ 2　E.PIANO ボタンを押します。

E.PIANO ボタンが点滅し、マルチ・ティンバー・モード2の設定のメニューが選ばれました。



ステップ 3　各チャンネルの発音のオン/オフの設定を行います。

設定は鍵盤左側の白鍵または黒鍵を使用します。
オンに設定する場合は、左端から16個の白鍵を押してください。
オフに設定する場合は、左端から16個の黒鍵を押してください。



ステップ 4　設定終了後、"設定モード"からでます。（P.25 参照）

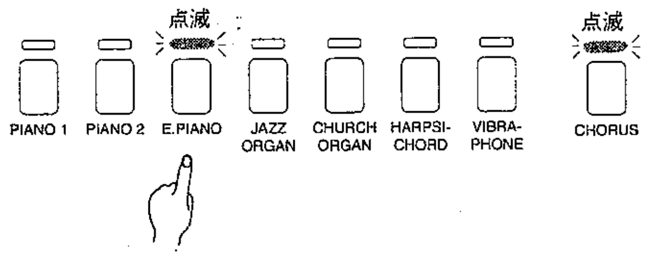
10）ローカルコントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロール オン/オフモードと呼びます。
ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らずにMIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。

ステップ1　"設定モード"に入ります。（P.24参照）

ステップ2　E.PIANO ﾎﾞﾀﾝ を押します。

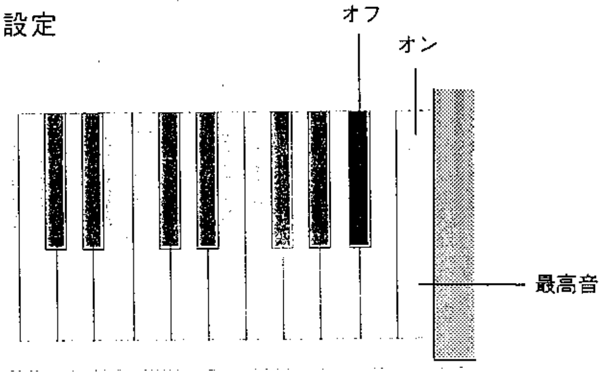
E.PIANO ﾎﾞﾀﾝ が点滅し、ローカルコントロールオン/オフの設定のメニューが選ばれました。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

ステップ3　ローカルコントロールオン/オフの設定

設定は、右端の黒鍵または白鍵を押して行います。
オンに設定する場合は、白鍵を押してください。
オフに設定する場合は、黒鍵を押してください。



■電源オン時、ローカルコントロールはオンに設定されています。

ステップ4　設定終了後、"設定モード"からでます。（P.25参照）

■ 8, 9, 11～16チャンネルに割り当てられている各音色（WOOD BASS 等）を、他のMIDI機器を使わず本機の鍵盤で弾きたい場合は次の操作を行います。

ステップ 1　設定モードに入り（P.24 参照）、マルチティンバーモード（P.39 参照）をオンにします。

ステップ 2　前ページの "ステップ2 " の操作を行いローカルコントロールをオフに設定します。

ステップ 3　PIANO2ﾎﾞﾀﾝを押し、チャンネル設定モードに入り、MIDIチャンネルを8, 9, 11～16のどれかに設定します。（P.35 参照）

ステップ 4　CHORUS ﾎﾞﾀﾝ を押して " 設定モード " から出ます。（P.25 参照）

ステップ 5　本体の背面にあるMIDI IN端子とMIDI OUT端子を一本のMIDIケーブルで接続します。

■ 通常の演奏の場合は、このようなMIDIケーブルの接続はしないようにしてください。

以上の操作により、8, 9, 11～16チャンネルに割り当てられている各音色を鍵盤で弾くことができます。

■ " ステップ2 " でローカルコントロールをオンにしておくと、パネル上の音色セレクトﾎﾞﾀﾝで選んだ音色と重ねて演奏することができます。

■主な仕様

■鍵　盤	木製88鍵 / New AWA 鍵盤
■発音数	32（コーラス使用時16）
■音　色	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、ジャズオルガン、チャーチオルガン、 ハープシコード、ビブラフォーン
■効　果	コーラス、リバーブ（ルーム、ステージ、ホール）
■音　律	平均律（2）、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第III法 、キンベルガー第III法
■その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、デュアル、デュアルバランス タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー） ＊ＰＳ６５０は、ヘッドホンフック付。
■レコーダー	2パート（トラック）×5ソング、総記録容量　約5,000音
■メトロノーム	4/4、3/4、1/4拍子
■ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
■外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT、THRU） LINE IN（L、R）、LINE OUT（L/MONO、R） ↳ピン　↳標準
■出　力	30W×2
■スピーカー	13cm×2（エンクロージャー付）、9cm×5cm×2
■キーカバー	スライド式
■定格電圧	AC100V、50/60Hz
■消費電力	60W
■仕上げ	ブックソロモン
■寸　法	142×51×90（スタンド含む）
■重　量	69Kg（スタンド含む）

KAWAI [Model PW610 / PS650] MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : MAR '95
Version : 1.0

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1,3** ×	** 電源ON時オムニ・オン、 MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ
ノート ナンバー	 音域	21 - 108* *********	0 - 127 15 - 113	
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	× ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ × ○	ﾎﾞﾘｭｰﾑ ﾀﾞﾝﾊﾟｰ ｿｽﾃﾇｰﾄ ｿﾌﾄﾍﾟﾀﾞﾙ
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○（0 - 127） *********	○（0 - 127）***	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備 考		* 15-113 トランスポーズによって変化する。 *** 7-127=0 （マルチティンバー OFF/1時） 15-127=0 （マルチティンバー 2時）		

モード1：オムニオン、ポリ　　モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ　　モード4：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

KAWAI

河合楽器製作所　電子楽器事業本部

〒430浜松市寺島町200番地
TEL.<053>457-1277
FAX.<053>457-1279

9507L
Printed in Japan